

県 外 派 遣 報 告 書 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成29年度 第47回関東中学校バスケットボール大会	開催地	山梨県甲府市
報告者名	若林謙作 大山賢史 神門康治	派遣期間	平成29年8月8日(火)～10日(木)
参加者 (所属都 県)	本部:渡邊整(栃木) 稲葉威(茨城) 河野仁(山梨) 関東指名:北島寛臣(埼玉) 星野由貴(群馬) 茨城:古畑香子 川満有紀 木村勇 群馬:菊地真吾 佐藤弘之 吉田和樹 埼玉:伊藤裕一 竜田雅史 大井陽平 千葉:岡崎武史 久保あしみ 林原潤 東京:上杉侑里子 鈴木寿之 島袋竹志 神奈川:廣瀬俊明 岩本涼子 奥原佑典 栃木:若林謙作 大山賢史 神門康治 山梨県審判員		
<b>【審判会議内容】</b> 「ガイドライン」について 講師:北島寛臣 氏 2017-2018 JBAプレイコーリング・ガイドライン(案) にしたがってレクチャー頂いた。 (特に新たに追加されたところを明記する) ○ ブロッキング・チャージング ・リーガル・ガーディング・ポジションやシリンダーの理解をよくしておく。 ・ドライブ等でインパクトが大きい触れ合いが起きた場合、明らかにオフェンスに責任がない時はディフェンスのファウルである。 ○ プロテクトシューター ・オフェンスがショットのため正当なジャンプをした場合、 <b>着地場所を確保する権利</b> がある。 ・オフェンス側プレイヤーがショットをする時、シリンダーを越えて必要以上に足や手などを広げ、リーガルなディフェンスに触れ合いを起こした場合はオフェンスファウルとして判定する。 ○ プレイヤー/コーチのテクニカル・ファウル ・ゲームは両チームのプレイヤー、チーム・ベンチ・パーソネル、審判、テーブル・オフィシャルズなどすべての人たちの協力によって成立するものであることを理解することが重要である。 ○ トラベリング ①ピヴォット・フット(軸足)が確立されたあと、明らかにピヴォット・フットを踏みかえること。 ②明らかにピヴォット・フットがずれること。 ③ドリブルを始めるとき、明らかにピヴォット・フットが床から離れた後にドリブルをすること(突き出しの 遅れ)次の場合もトラベリングである。 ④プレイヤーがボールを持ったまま床に倒れたり、床に倒れた勢いでボールを持ったまま床をすべること、あるいは横たわったりすわりこんでいるプレイヤーがボールを持つことはヴァイオレーションではないが、その後転がったり、立ち上がることはトラベリングである。 ⑤ボールを持って止まっているプレイヤーのピヴォット・フットが決まった後に、さらに明らかにジャンプしどちらかの足が床についてからショットまたはパスをすること。 ○ ファइटینگ コート上やコートの周囲で暴力行為が起こった時や起こりそうな時に、チーム・ベンチ・エリアから出たチーム・ベンチ・パーソネルに適用される。 ○ 星野 由貴 氏 ・マンツーマンディフェンス推進 審判の対応についてお話頂いた。 ゲーム中、マンツーマンディフェンスが行われているかどうかの判断は、全てコミッショナーが行う者で審判はそれに従う。(試合前にコミッショナーの位置を確認しておく)審判員は判定に集中しながらも、どちらかの審員がコミッショナーの旗に対して認識が出来るよう意識し、コミュニケーションをとる。ゲーム運営の一環としてとらえる。			

県 外 派 遣 報 告 書 栃木県バスケットボール協会 審判部

大会名	平成29年度 第47回関東中学校バスケットボール大会	開催地	山梨県甲府市
報告者名	若林謙作 大山賢史 神門康治	派遣期間	平成29年8月8日(火)～10日(木)
参加者 (所属都 県)	本部:渡邊整(栃木) 稲葉威(茨城) 河野仁(山梨) 関東指名:北島寛臣(埼玉) 星野由貴(群馬) 茨城:古畑香子 川満有紀 木村勇 群馬:菊地真吾 佐藤弘之 吉田和樹 埼玉:伊藤裕一 竜田雅史 大井陽平 千葉:岡崎武史 久保あしみ 林原潤 東京:上杉侑里子 鈴木寿之 島袋竹志 神奈川:廣瀬俊明 岩本涼子 奥原佑典 栃木:若林謙作 大山賢史 神門康治 山梨県審判員		

**グループミーティング**

準決勝終了後に各コート毎にグループミーティングを行った。

**【目的】**

担当審判員の判定の根拠や考え方、プレイの見方など、参加審判員と共通理解を図り、それぞれが次の審判活動に活かせることを目指す。

単に間違いの指摘や非難、否定をするという場ではなく、参加審判員が、自分の考えを発言することにより、積極性と責任感をさらに身につけることを目指す。

**【内容と進め方】(以下に限らない)**

- 1 ガイドラインの各項目に沿って、参加審判員たちの考えや意見を発言してもらおう。  
(良かったケースや、共有してもらいたい項目、外してしまっていた項目を抽出しておこなう)
- 2 発言されたケースについて、同様な意見を持つ人、違った見方をした人がいるかどうかを確認する。
- 3 担当審判員に見解や根拠を述べてもらう。
- 4 審判主任の見解を述べてもらう。
- 5 ゲームを通してガイドラインに沿った判定や運営が行われていたのかを中心に感想等をまとめる。

**【注意事項】**

コートの外から見た印象と現場での判定や見え方の違い、見間違いであったかもしれないことへの確認、見解、判定の根拠など共通理解などが得られれば良い。(解決・すり合わせができていないものときかないものがある。)

審判主任と担当審判員双方ともに、出されたケースについて印象が薄く記憶に残っていないケースもあり得ることは仕方ない。

○対戦カード :男子準決勝 草野(千葉)ー実践学園(東京)

○コート担当 :審判主任 小澤勤(山梨) 吉田和樹(群馬) 林原潤(千葉) 大山賢史

○審判員 :R稲葉威(茨城) U1丸山淳(山梨) U2伊藤裕一(埼玉)

#### 担当審判員とミーティングメンバーの意見

・メカニクスの部分でTOレポートのところまで意識出来るとよかった。

・大きなトラブルなく良いゲームであったと思う。

・コーチとのコミュニケーションをどのように取っているのか。 など

#### 感想

・全体的に大きなトラブルもなく、良いゲーム運営であった。そのため判定の部分での話は少なく、メカニクスやコーチや選手への対応などの話題があがっていた。

・ミーティング時にクリップ映像を用意しておくことで、より建設的な意見交換が出来たと感じる。試合中に「ピリオドの終わり」、「スローイン」、「速攻」など場面を区切って可能な限り、映像に残してミーティングに臨むと良いと思う。

大山賢史

○対戦カード :男子準決勝 桐生相生(群馬)ーアレセイア(神奈川)

○コート担当 :審判主任 北島寛臣(本部) 鈴木寿之(東京) 島袋竹志(東京) 神門康治

○審判員 :R河野仁(山梨) U1岡崎武史(千葉) U2手塚清孝(山梨)

#### 感想

・グループミーティングをすることで、様々な意見を聞くことができました。一つのプレーに対して複数の考え方が出てきたり、コート外から見ている場所によってプレーの見方も異なってくるということがはっきりしました。また3POの細かい確認も行うことができ、誰が最初にならすべきかなど細かいことを確認することができました。

神門 康治

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 8日(火)

審判員名	大山 賢史	相手審判	(副審) 大井陽平	所属	埼玉
カード	深川第一(東京)	対	田富(山梨)	男子	1回戦

◇ ケース・ポジションについて

図1

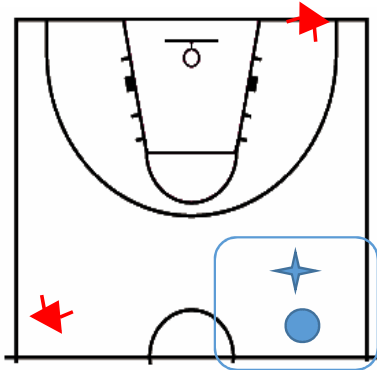
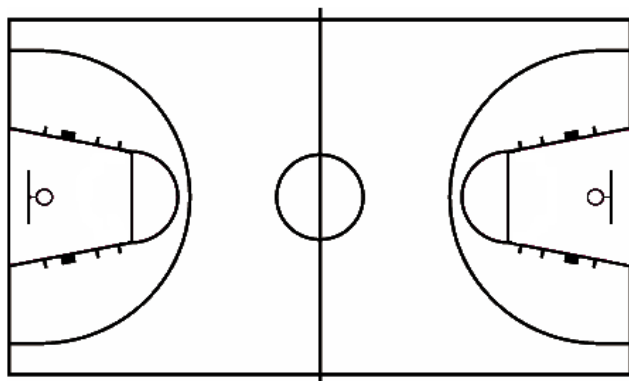
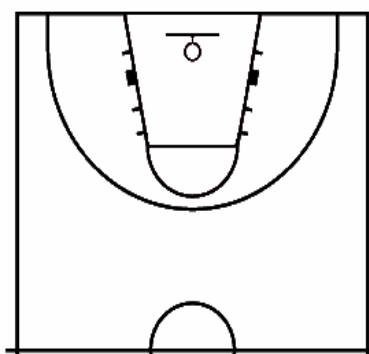


図2



- オフェンス
- ★ ディフェンス
- ボール
- ✖ レフリー

◇ ミーティングの内容

○ 責任エリアと判定について

- ・3番エリアにおいて、オンボール1対1のディフェンスにもっと注意を払い判定すべきであった。
- ・アンスポーツマンライクファウルを取り上げた際のタイミングや引きつけ方はとても良かった。

《審判主任》 菊地真吾 氏(東京)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 9日(水)

審判員名	大山 賢史	相手審判	(副審) 菊池真吾	所属	群馬
カード	梅ヶ丘(東京)	対	草野(千葉)	男子	2回戦

◇ ケース・ポジションについて

図1

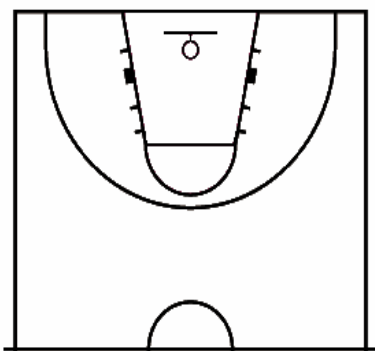
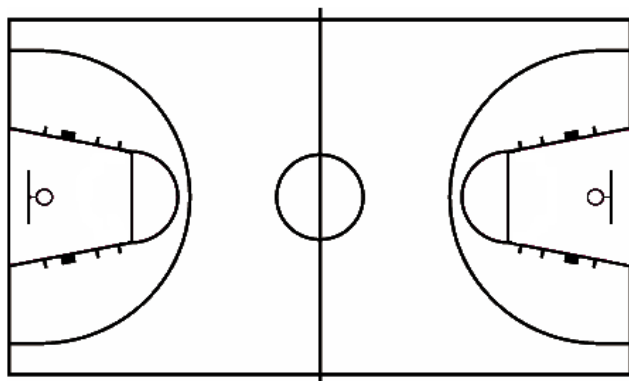
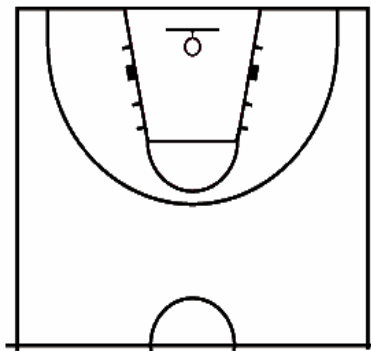


図2



◇ ミーティングの内容

○ 責任エリアと判定について

- ・全体としてはガイドラインに沿って判定を積み重ねたところは良かった。
- ・中学生の категорияで技術がまだ未熟な選手らに対して、より良い判定を求めていくことは今後の課題である。
- ・選手やコーチはほぼ気にしていなかったが、オープンステップのドライブに対して、トラベリングをコールすべきであった。

《審判主任》伊藤裕一 氏(埼玉)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 9日(水)

審判員名	若林 謙作	相手審判	(主審) 岡崎 武史	所属	千葉
カード	東京成徳(東京)	対	所沢山口(埼玉)	女子	2回戦
<p>◇ ケース・ポジションについて</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>図1</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>図2</p>  </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div>					
<p>◇ ミーティングの内容</p> <p>○トレイルからの判定について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・位置が少し高いように感じられた。もう少し下りてリードとの協力が必要。</li> <li>・トレイルからの判定が積極的であった。責任の所在についてもっと丁寧に判定ができるともっと良かった。</li> <li>・ベンチで交代要員が立ち続けている場面が見られた。ベンチ管理も協力してできると良かった。</li> </ul>					
<p>《審判主任》鈴木寿之 氏(東京)</p>					

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 10日(木)

審判員名	若林 謙作	相手審判	(R) 小澤 勤	所属	山梨
			(U1) 北島 寛臣	所属	埼玉
カード	実践学園(東京)	対	アレセイヤ(神奈川)	男子	決勝

◇ ケース・ポジションについて  
図1

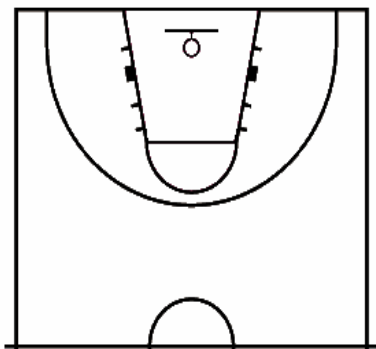
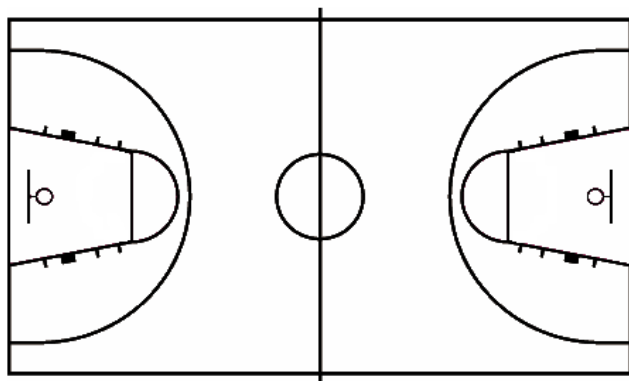
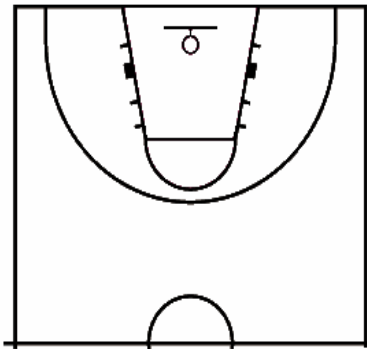


図2



◇ ミーティングの内容

○プライマリーについて

- ・リードからのクロスコールはしていなかった。とても良かった。
- ・センターから始まっているプレイについて、もう少し責任をもって判定できるともっと良かった。

《審判主任》 稲葉 威 氏(茨城)

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 8日(火)

審判員名	神門 康治	相手審判	(副審) 林原 潤	所属	千葉
カード	玉幡(山梨)	対	梅ヶ丘(東京)	男子	1回戦
<p>◇ ケース・ポジションについて</p> <p>図1</p>  <p>図2</p>  					
◇ ミーティングの内容					
<p>○プライマリーをしっかりと把握して責任を持つこと</p> <p>相手レフリー(リード)がリングの左側において、ボール保持者がエリア6にいたときトラベリングが生じた。私は他の選手に意識が向いていたため、トレイルでそのトラベリングをしっかりと判定できず、相手に笛をならしてもらった。(トレイルとしての責任をもっとしっかりと果たすこと、リードはクロスコールであることを把握しておくこと)</p> <p>○足元の整理(トラベリング)</p> <p>軸足のずれ、突き出しの遅れ等(JBAプレイコーリング・ガイドライン)をもっと細かく整理をしておくですっきりとしたゲームになったのではないか。</p> <p>○より良いアングルを取り続ける重要性</p>					
《審判主任》北島 寛臣 氏(埼玉)					



# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:平成29年 8月 9日(水)

審判員名	神門 康治	相手審判	(副審) 鈴木 寿之	所属	東京
カード	所沢山口(埼玉)	対	山中湖(山梨)	女子	2回戦

◇ ケース・ポジションについて

図1

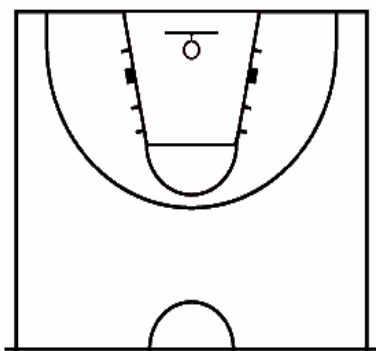
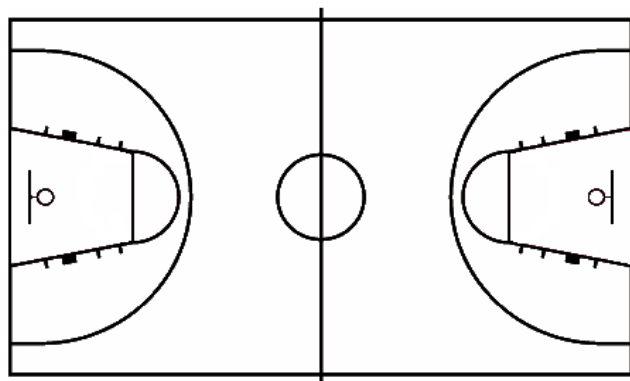
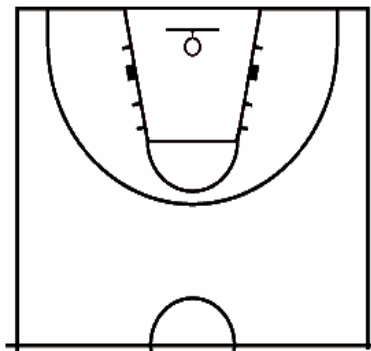


図2



◇ ミーティングの内容

○一試合を通しての一貫性の重要性

試合開始はしっかりと判定することができた。ただ、2ピリ以降自分のエリア内での接触等の判定が甘くなってしまっている場面が見られた。一試合を通して一貫性をもつことが大切であるとご指導いただいた。

○トレイルレフリーの責任

今大会の最初の試合でもあったようにトレイルレフリーの責任エリアの重要性を確認。リードレフリーが判定できない部分をトレイルで確認して判定する必要がある。

《審判主任》岡崎 武史 氏(千葉)

## 【感想・県内審判員へ伝達したいこと】

今大会においては2ゲーム担当しましたが、プライマリーエリアの判定に責任を持つことの重要性を再確認することができました。1試合目は全国大会出場をかけた試合でした。2試合目は男子の決勝戦でした。2試合とも非常に重要な試合、且つタフな試合でした。その中でパートナーもしくはクルーで協力し、1試合を無事に終わらせることが大切であると感じました。その第1歩として、自分のプライマリーエリアで行われている、自分のプライマリーエリアから始まったプレイに対して積極的に判定をすることが、試合をより良い方向に導くものであると感じました。そして、同じパートナーやクルーが判定したヴァイオレーションやファールについても共有し、判定の一貫性や公平性に取り入れていく必要もあることも感じました。

この3日間とても貴重な経験をすることができ、今後の自らの審判活動に多くのことを活かしていきたいと思っています。また、可能な限り県内の仲間に伝達・共有ができると、更に県内審判のレベルアップにつながると感じています。

今回派遣させていただく上で大変お世話になりました渡邊整関東ブロック長、渡邊諭県審判長に感謝申し上げます。また多くの県内審判員より激励のお言葉を頂戴しましたことにも感謝いたします。最後に山梨県の皆様には3日間大変お世話になりました。ありがとうございました。

若林謙作

今回は1泊審判員として1回戦と2回戦を担当しました。関東中学大会への派遣は初めてで、全国大会への出場権、また3年生の引退がかかる非常に緊張感のある大会となりました。1回戦は主審として、2回戦は副審として試合に臨みましたが、中学生カテゴリーというやや技術が未熟で体格も小柄な選手らに対して、試合にマッチした判定が出来たかは課題が残るところでもありました。今後よく分析してカテゴリーに関係なく信頼されるレフリングが出来るよう取り組んでいきたいと思えます。

また、グループミーティングでは、準決勝を担当した審判員と、オンザコートでの捉え方、その時に考えていたことなど、コートの中、外から見ていることを多くの審判員と情報交換しました。特に3POメカニクスについてはT・Oレポートを含め、プライマリーの理解を深めるために審判主任の小澤氏(山梨県)からも意見を頂き、多くの意見交換が出来ました。今後も我々が中心となり、多くの人に参加できるミーティングになるよう発展させていきたいと思えます。

渡邊整関東審判長、渡邊諭県審判長をはじめ県内審判員に対し、派遣して頂いたことを心より感謝致します。また山梨県審判員、全ての大会役員の皆様にご配慮頂きまして、心より感謝申し上げます。

大山賢史

今回の関東大会では最初の会議でJBAプレイコーリング・ガイドラインの確認が行われました。ディフェンスの悪い手・腕・肘やスクリーンプレイ、プロテクト・シューター等の確認をしっかりとすることができました。また、トラベリングの基本も確認することができました。軸足の踏みかえ、軸足のずれ、突き出しの遅れの状況をしっかりと確認する重要性を確認できました。

今回は2試合担当させていただき、共通する課題としてはプライマリーの把握でした。お互いの審判の役割をしっかりと理解して、取り組むことの重要性を学ぶことができました。また、より良いアングルを取り続けて、良い角度からより正確な判定をすることの大切さを改めて学ぶことができました。

渡邊整関東審判長、渡邊諭県審判長をはじめ県内審判員に対し、派遣して頂いたことを心より感謝いたします。また山梨県審判員、大会役員の皆様にご配慮頂きまして、心より感謝申し上げます。

---

神門康治